

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-113	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183第一	世探707	高等学校 世界史探究		

1. 編修の基本方針
<p>本書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史学習の基本となる知識を身につけ、興味・関心をもって学習に取り組めるよう配慮した。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容は、基本的な事項を中心に精選し、平易で理解しやすい表現を心がけ、理解しにくい内容については注を付して丁寧に解説した。また、「歴史総合」で学習したことをふまえ、近現代の歴史については、前近代より通史的な扱いにこだわらず、問いをもとに内容を焦点化して学習できるよう配慮した。 ・本編は見開き完結の紙面構成とし、写真などをダイナミックに掲載することで、学習内容へのイメージをもたせるとともに、生徒が興味・関心をもって学習できるようにした。 2. 主体的・対話的で深い学びにつながる学習に配慮した。 <ul style="list-style-type: none"> ・本編ページでは、生徒の主体的な思考・判断・表現を促すために問いを構造化した。 ・節ごとには「節の問い」、節が複数見開きに及ぶ場合には「学習課題」を設置し、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるようにした。 ・「問いのステップ」を設け、それぞれの学習内容に関する複数の小規模な問いに答えることで、「考察を深める問い」の解決に向けて思考を深められるようにした。 ・節の最後には「考察を深める問い」を設け、学習内容の定着をはかるとともに、より深い理解を促すようにした。 3. 多面的・多角的に歴史を学ぶことができるように配慮した。 <ul style="list-style-type: none"> ・地図や写真、絵画、風刺画、文献資料などの諸資料を豊富に掲載することで、幅広い知識と教養を身につけさせるとともに、生徒が主体的に資料から得られる情報を読み取り、歴史を多面的・多角的に考察できるようにした。 ・特集「地理・風土」を設けることで、地理的条件と関連づけて世界の歴史を捉えさせるとともに、諸地域どうしのつながりや諸地域の歴史と現在とのつながりを通して、生徒が歴史を身近に感じることができるよう配慮した。 ・特集「テーマ」を設け、多様な視点から世界の歴史を捉えられるようにした。 4. 持続可能な社会の実現という視点で世界の歴史を理解することができるよう配慮した。 <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発目標(SDGs)に関連する特集ページを設け、現代の世界が抱える課題と関連づけながら世界の歴史を考察できるようにした。 ・欄外に適宜「現在とのつながり」の問いを設け、現代世界のさまざまな課題と世界の歴史とのつながりを意識し、課題解決への視点をもちながら学習できるようにした。

2. 対照表		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭特集 世界史 学習の前に	歴史的な見方・考え方の特徴、世界史学習の基礎知識、歴史資料の取扱い、探究学習の手法などを学ぶことにより、生徒の主体的な歴史学習への意欲を喚起し、真理を求める態度を養えるよう留意した(第1号)。	p. 6～11
第1編 世界史への まなざし	人類の歴史を地球規模の長い時間軸で捉え、身近な事象と世界史とのつながりを学ぶことにより、歴史を学ぶ意味に気づかせ、主体的な歴史学習への意欲を喚起して、幅広い知識と教養を身につけ、	p. 12～15

	真理を求める態度を養えるよう留意した(第1号)。	
第2編 諸地域の歴史的特質の形成	<p>ユーラシアの各地で生まれた文明の特質と歴史を大観させることにより、幅広い知識と教養を身につけさせるとともに、他国の文化を尊重する態度を養えるよう留意した(第1・5号)。</p> <p>先人が自然環境に働きかけながら生活を営み、歴史を発展させてきたことを学ぶことにより、勤労を重んずる態度を養うとともに、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した(第2・4号)。</p> <p>日本を含むユーラシア東部を示す地域区分「東部ユーラシア」の枠組みを用いて、日本がアジアの国々と密接な関係をもちながら歴史を歩んできたことを学ぶことにより、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう留意した(第5号)。</p> <p>キリスト教、仏教、ヒンドゥー教、イスラームといった各宗教の特質を丁寧に記述することにより、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第5号)。</p>	<p>p. 18～85</p> <p>p. 22～23, 26～27, 30～33, 36～45</p> <p>p. 32～33, 66～75</p> <p>p. 54～57, 76～85</p>
第3編 諸地域の交流・再編	<p>おもに9～17世紀の世界における諸地域の交流の広がり、諸地域の交易とヨーロッパの進出、アジア諸地域の動向、ヨーロッパ諸地域の動向などについて大観させることで、幅広い知識と教養を身につけられるよう留意した(第1号)。</p> <p>14～18世紀における日本と世界との関係を丁寧に記述するとともに、世界遺産の石見銀山を取り上げることで、我が国の伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう留意した(第5号)。</p> <p>社会は自由で平等な個人の契約によってつくられたものとする社会契約説や、啓蒙思想とその影響を学ぶことにより、公共の精神に基づいて主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第2・3号)。</p>	<p>p. 86～147</p> <p>p. 112～117, 130～135</p> <p>p. 146～147</p>
第4編 諸地域の結合・変容	<p>19世紀における諸地域の政治面・経済面での緊密化、19世紀末の世界経済の構造変容、第一次世界大戦後の国際秩序の変容、第二次世界大戦を契機とした欧米諸国の覇権の推移などについて大観させることで、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した(第1号)。</p> <p>産業革命における技術革新とその影響を学ぶとともに、労働問題や環境破壊といった現在にもつながる諸問題が発生したこと、またその解決に向けた努力がなされたことを学ぶことにより、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第2・3号)。</p> <p>アメリカ独立革命やフランス革命を経て、自由や平等を尊重する動きが各地に広まり、現在の民主社会の形成へとつながっていったことを丁寧に記述することで、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第3号)。</p> <p>19世紀後半から20世紀はじめにかけて世界各地で移民が進んだこと、移民は時には差別や迫害を受けながらも移民先社会に定着していったことを丁寧に記述し、自他の敬愛を重んずるとともに、他者と協力して工夫を重ねることの必要性に気づくことができるよう配慮した(第4号)。</p> <p>ヨーロッパによる植民地化が進む一方で、それへの抵抗や社会変革などアジアで展開された主体的な動きについて丁寧に記述し、歴</p>	<p>p. 148～223</p> <p>p. 152～153, 162～163</p> <p>p. 154～161</p> <p>p. 168～169</p> <p>p. 170～179, 188～191</p>

	<p>史のより深い理解と多角的な考察を促すとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第1・5号)。</p> <p>第一次世界大戦後の選挙権の拡大や、世界恐慌から第二次世界大戦にかけての社会統制の強化、日本の平和条約締結などを学ぶことにより、個人の価値を尊重することの重要性を認識し、また正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるよう留意した(第2・3号)。</p> <p>第一次世界大戦の惨禍とその後の国際協調の進展、アジア諸国における独立運動や民族運動の高揚、第二次世界大戦後の新たな国際秩序の形成などを学ぶことにより、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第5号)。</p>	<p>p. 200～203, 210～213, 222～223</p> <p>p. 194～199, 204～207, 216～217</p>
<p>第5編 地球世界の課題</p>	<p>20世紀後半以降の世界における冷戦の展開や第三世界の台頭、地域紛争の頻発、グローバル化に向かう世界経済、地域間・国内で生じた経済格差などについて大観させることで、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した(第1号)</p> <p>政治的独立を達成した第三世界の国々の中には、モノカルチャー経済から抜け出せず貧困に苦しんでいる国が多く、先進国との間で深刻な経済格差が存在していること、さらに、1970年代以降には開発途上国の間でも経済格差の問題が生じていることなどを丁寧に記述することにより、現在の国際社会における課題に気づかせ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した(第5号)。</p> <p>持続可能な開発に向けた国際的な取り組みの進展などを学ぶことにより、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう留意した(第4号)。</p> <p>第二次世界大戦後の核兵器開発競争と核保有をめぐる現在の状況、核廃絶に向けた取り組みを学ぶことにより、核廃絶のために何が必要かを主体的に考察し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した(第3・5号)。</p> <p>20世紀以降の世界における医療技術の拡大にともなう生命倫理の問題や、人工知能の発達による人類の生活や労働のあり方の可能性について丁寧に記述することにより、個人の価値を尊重してその能力を伸ばし、自主及び自律の精神を養うよう配慮した(第2号)。</p>	<p>p. 224～249</p> <p>p. 228～233, 244～245</p> <p>p. 250～251</p> <p>p. 234～237, 252～253</p> <p>p. 254～257</p>
<p>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・書体はユニバーサルフォントを用いたほか、図版や地図の作成にあたってはすべての生徒にとって学びやすいカラーユニバーサルデザインに配慮した。 ・本文では、ページごとに重要人名は明朝体の太字にし、それ以外の重要語句とのちがいがわかるようにした。 ・B5判の紙面を有効に活用するため、ページの開きがよく耐久性も高いPUR製本を採用した。 		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-113	高等学校	地理歴史科	世界史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183第一	世探707	高等学校 世界史探究		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- 世界の歴史の大きな流れと枠組みをおさえることができ、多様な視点から世界の歴史を捉えられる教科書にした。
 - 従来の網羅的・知識注入型の教科書からの脱却をめざし、一国史的な歴史の見方やヨーロッパ中心・中国中心の見方の相対化を意識して編修した。
 - 地球規模で展開する世界の歴史を学ぶことのおもしろさが伝わるようにした。
 - 「歴史総合」で学習したことを前提に、近現代の歴史については、前近代よりも通史的な扱いにこだわらず、問いをもとに内容を焦点化して学習できるよう配慮した。
 - 前近代でも、たとえば、西アジアや南アジアの諸帝国を扱うページでは、オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国の国ごとの動向ではなく、諸帝国の統治の共通点に注目させるなど、問いをもとに歴史の大きな枠組みをおさえられるよう留意した。
 - 各編に設けた「テーマ」では、文化に焦点をあてたテーマ、時代を特徴づけるものに焦点をあてたテーマ、時代の特徴をまとめたテーマ、文明間の交流に注目したテーマなどを扱い、歴史を多角的・多面的に考察できるよう留意した。
- 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びができるようにした。
 - 巻頭に「歴史の見方・考え方」という特集ページを設け、歴史的な見方・考え方について解説した。
 - 本編ページでは問いを構造化して、生徒の主体的な思考・判断・表現を促すようにした。
 - 本編ページの節の冒頭には節全体の学習内容を見渡す「節の問い」を、節が複数見開きに及ぶ場合には見開きごとに「学習課題」を設け、生徒がそれぞれの節や見開きの学習に対する見通しをもてるようにした。
 - 本編ページの各見開きには「問いのステップ」を設け、生徒が小さな問いに答えることで学習の道筋を確認し、節の末尾の「考察を深める問い」の解決に向けて思考を深めていけるようにした。
 - 節の末尾には「考察を深める問い」を設け、節で学習したことをもとに諸事象を比較したり関連づけたりするなどして学習内容の定着をはかるとともに、より深い理解につなげられるようにした。
 - 「節の問い」・「学習課題」・「考察を深める問い」には、歴史的な見方・考え方にかかわるマークを付し、歴史事象を考察する際の着眼点を示した。
 - 第2～5編の各第1章「～への問い」は、各編の導入と位置づけ、編の内容を読み解く観点にもとづく諸資料を生徒が読み解き、編についての問いを表現する活動ができるようにした。
- 生徒が文献資料の読解を通して主体的に世界史学習に取り組めるようにした。
 - 巻頭に「歴史資料の特性と取りあつかいの留意点」という特集ページを設け、資料の特性や留意点について解説した。
 - 本編ページの各見開きには文献資料を掲載し、「問いのステップ」に問いを設けることで資料読解の手がかりになるようにした。
 - 「地理・風土」の各見開きにも文献資料を掲載し、地域の風土の特徴を文献資料からも読み取ることができるようにした。
 - 「資料読解特集」では、文献資料や写真、絵画、風刺画、グラフなどを読み解きながら、市井の人々の生活や、近現代における女性の政治参加の歩み、アメリカの対外拡張の背景などが理解できるようにした。
- 世界の歴史と現代とのつながりを意識して編修した。
 - 第5編第5章では、教科書のまとめとして「地球世界の課題の探究」を設定し、地球上に存在する課題

とその形成にかかわる世界の歴史について、生徒自身が主題を設定して多面的・多角的に探究し、よりよい社会を展望することができるようにした。

- ・巻頭に「探究学習のヒント」という特集ページを設け、探究の手順と留意点を示した。
 - ・本編の奇数ページの欄外には、適宜「現在とのつながり」の問いを設け、現在の問題と歴史とのつながりを考えられるようにした。
5. 中学校までの学習や「歴史総合」の学習との関連、地理とのつながりを重視し、興味・関心をもって世界史学習に取り組めるようにした。
- ・初めて体系的に世界史を学ぶ生徒が、その後の学習に無理なく入っていけるように、巻頭に「世界史の基礎知識」という特集ページを設けた。
 - ・本編の偶数ページの欄外には、見開きの学習内容の年代と同時代の日本の年代について示した帯を掲載し、中学校までの学習や「歴史総合」で学んだ日本の歴史と比較する視点をもちながら世界の歴史を学べるようにした。
 - ・奇数ページの小口側には、地域を示したツメをつけ、つねにどこの地域を学習しているかがわかるようにした。
 - ・第2編第2章に「地理・風土」というページを設け、西アジア・地中海世界、南アジア、中央ユーラシア、東アジア、東南アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、オセアニアの諸地域について地域の空間的位置、特徴的な風土など世界史学習の基本となる地理的背景をおさえることができるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 世界史へのまなざし			
①地球環境から見る人類の歴史	大項目A－中項目(1)	p. 12～13	1
②日常生活から見る世界の歴史	大項目A－中項目(2)	p. 14～15	1
第2編 諸地域の歴史的特質の形成			
第1章 諸地域の歴史的特質への問い	大項目B－中項目(1)	p. 18～21	1
第2章 古代文明の歴史的特質			
第1節 西アジア文明	大項目B－中項目(2)	p. 24～25	1
第2節 インダス文明		p. 28～29	1
第3節 中華文明		p. 34～35	1
第3章 諸地域の歴史的特質			
第1節 西アジアと地中海周辺の諸国家	大項目B－中項目(3)	p. 46～51, 54～55	4
第2節 仏教の成立とヒンドゥー教		p. 56～57	1
第3節 南アジアと東南アジアの諸国家		p. 58～61	2
第4節 秦・漢と遊牧国家		p. 62～67	3
第5節 唐と近隣諸国の動向		p. 68～71, 74～75	3
第6節 キリスト教とイスラームを基盤とした国家の形成		p. 76～83	4
第3編 諸地域の交流・再編			
第1章 諸地域の交流・再編への問い	大項目C－中項目(1)	p. 86～89	1

第2章 結びつくユーラシアと諸地域			
第1節 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播	大項目C－中項目(2)	p. 90～91	1
第2節 ヨーロッパ封建社会とその展開		p. 92～93, 98～99	2
第3節 宋の社会とモンゴル帝国の拡大		p. 100～107	4
第4節 15～16世紀のアジア海域での交易の興隆		p. 110～111	1
第5節 明と東アジアの動向		p. 112～115	2
第6節 スペインとポルトガルの活動		p. 118～121	2
第3章 アジア諸地域とヨーロッパの再編			
第1節 西アジアや南アジアの諸帝国	大項目C－中項目(3)	p. 124～127	2
第2節 清と東アジアの動向		p. 130～133	2
第3節 宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争		p. 138～141	2
第4節 大西洋三角貿易の展開		p. 144～145	1
第5節 科学革命と啓蒙思想		p. 146～147	1
第4編 諸地域の結合・変容			
第1章 諸地域の結合・変容への問い	大項目D－中項目(1)	p. 148～151	1
第2章 世界市場の形成と諸地域の結合			
第1節 産業革命と環大西洋革命	大項目D－中項目(2)	p. 152～157	3
第2節 自由主義とナショナリズム		p. 158～163	3
第3節 南北戦争の展開		p. 164～165	1
第4節 イギリスを中心とした自由貿易体制		p. 166～167	1
第5節 国際的な分業体制と労働力の移動		p. 168～169	1
第6節 アジア諸国の植民地化と諸改革		p. 170～179	5
第3章 帝国主義とナショナリズムの高揚			
第1節 第2次産業革命と帝国主義諸国の抗争	大項目D－中項目(3)	p. 182～185	2
第2節 アジア諸国の変革		p. 188～191	2
第3節 第一次世界大戦とロシア革命		p. 192～193, 196～197	2
第4節 ヴェルサイユ=ワシントン大戦の成立		p. 198～199	1
第5節 アメリカ合衆国の台頭		p. 200～201	1
第6節 アジア・アフリカの動向とナショナリズム		p. 204～207	2
第4章 第二次世界大戦と諸地域の変容			
第1節 世界恐慌と国際経済体制の変容	大項目D－中項目(4)	p. 208～209	1

第2節	ヴェルサイユ=ワシントン体制の動揺		p. 210～213	2
第3節	第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序		p. 214～217	2
第4節	冷戦とアジア諸国の独立のはじまり		p. 220～223	2
第5編 地球世界の課題				
第1章	地球世界の課題への問い		p. 224～227	1
第2章	冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭			
第1節	アジア・アフリカ諸国の独立と新興独立国の結束	大項目E－中項目 (1)(2)	p. 228～229	1
第2節	先進国の経済成長と南北問題		p. 232～233	1
第3節	集団安全保障と冷戦の展開		p. 234～235	1
第4節	平和共存と多極化の進展		p. 236～237	1
第3章	国際秩序の変容と経済のグローバル化			
第1節	アメリカ合衆国の覇権の動揺	大項目E－中項目 (1)(2)	p. 238～239	1
第2節	資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換		p. 240～241	1
第3節	アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題		p. 244～245	1
第4節	冷戦の終結と地域紛争の頻発		p. 246～247	1
第5節	経済のグローバル化		p. 248～249	1
第4章	科学技術の高度化と知識基盤社会			
第1節	原子力の利用や宇宙探査などの科学技術	大項目E－中項目(3)	p. 252～253	1
第2節	医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理		p. 254～255	1
第3節	人工知能と労働のあり方の変容		p. 256～257	1
第4節	情報通信技術の発達と知識の普及		p. 258～259	1
第5章	地球世界の課題の探究			
第1節	紛争解決や共生	大項目E－中項目(4)	p. 260～261	2
第2節	経済発展と経済格差の是正		p. 262～263	
第3節	科学技術の発展や文化の変容		p. 264～265	
			計	92